

第2 松本市の現況と都市づくりの課題

1 松本市の現況

(1) 地勢

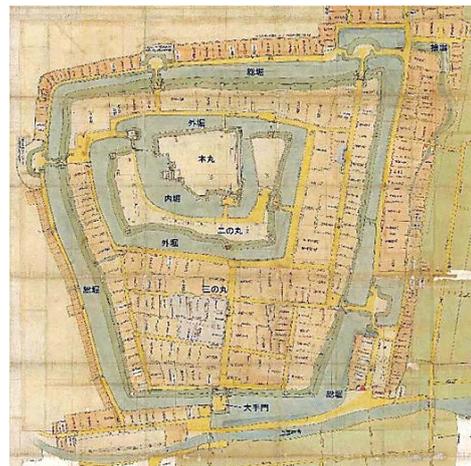
松本市は、長野県のほぼ中央に位置し、県内で最も広い市域を有しています（978.47平方キロメートル）。

日本の屋根と言われる山岳地帯から広大な松本平（松本盆地）まで、変化に富んだ地形と多様な環境が形成され、幾多の河川のほか、湧水やせせらぎなどが市内の随所にみられます。

●松本市の位置



●松本城の構成



(出典：松本市歴史的風致維持向上計画（第2期）)

(2) 歴史

江戸時代は松本藩の城下町として栄え、特に中心市街地には、城下町の町割りや歴史的建造物など、個性的な歴史文化資源を数多く残しています。

平成12年には特例市の指定を受け、更に、令和3年4月には中核市へと移行し、地域を牽引する都市として、市民の生活向上と自律分散型社会の実現に向けて新たなスタートを切りました。

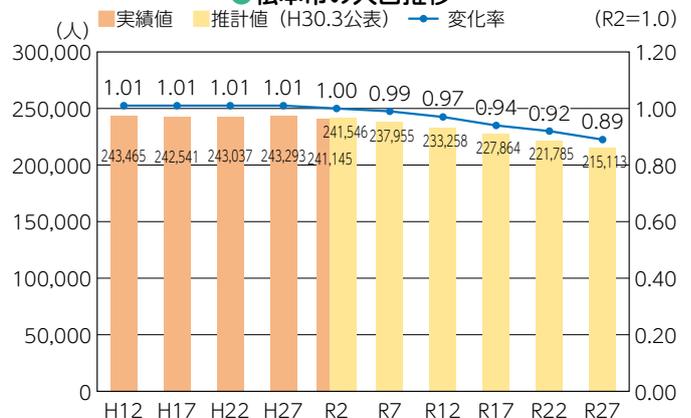
(3) 人口

人口は、令和2年国勢調査では241,145人です。

国勢調査によると、前計画策定後の10年間（H22～R2）で、約1,900人減少しました。

長期的には松本市全体の人口は減少すると推計されており、既に中心市街地や中山間地では、人口減少や少子高齢化が顕著に進んでいます。

●松本市の人口推移



(資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）)

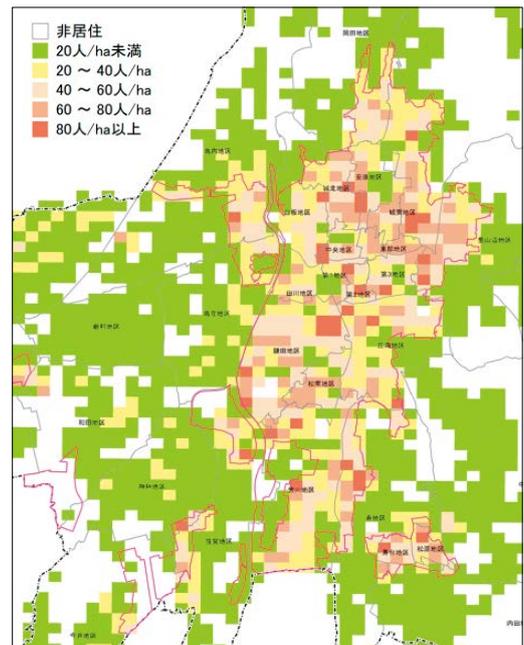
(4) 土地利用や都市基盤

市街地では、歴史と文化を感じられるまちなみ整備や地域の特色を活かした都市基盤整備を積極的に進めてきました。しかし、近年は、空き地や空き家が増加し、市街地の低密度化が進んでいます。

一方、郊外部や中山間地の一部では、農林業就業者の高齢化や担い手不足が進行し、耕作放棄地の増加や森林の荒廃などが懸念されています。

また、都市計画道路については、整備を推進してきました。一方、長期に渡り未着手の路線は見直すこととし、令和元年11月には、市内で初めて2路線（城山新井線・松本朝日線）の一部を廃止しました。

●市街地の人口密度分布（H30）



(5) 都市計画

昭和2年、当時の松本市と旧本郷村を合わせて松本都市計画区域を指定し、昭和46年に区域区分（市街化区域及び市街化調整区域の線引き）を決定しました。その後、平成7年に旧波田町で波田都市計画区域を、平成14年に旧梓川村で梓川都市計画区域を指定しました。

市町村合併後、平成22年には梓川都市計画区域と、平成26年には波田都市計画区域と松本都市計画区域を統合し、それぞれ区域区分を決定することで土地利用制限の格差を是正し、一体の都市として整備を推進してきました。

市街地において密度の高い土地利用を、郊外部において農林業等と調和した土地利用を推進してきた結果、平成27年10月現在、市域面積の約4.1%に当たる市街化区域内に市民の約71%が居住し、市民及び都市圏全体を支える高次な都市機能や多くの商業施設等が立地しています。

●松本市の面積・人口

区 分	面積	人口
市域全体	97,847ha	243,293人
都市計画区域	30,191ha	236,047人
市街化区域	4,008ha	172,952人
市街化調整区域	26,183ha	63,095人
都市計画区域外	67,656ha	7,246人

※人口は平成27年国勢調査

平成29年に策定（平成31年一部改定）した松本市立地適正化計画では、「都市機能誘導区域」と「居住誘導区域」を定め、市街化区域内におけるメリハリのある土地利用を誘導し、既存の都市機能や公共交通等の持続可能性を高めることで、市域全体の住民の生活利便性の維持・充実を図る方針を定めました。

2 都市づくりの課題

旧計画に示した「都市づくりの課題」を基に、松本市の現況や全国的な課題等を踏まえ、上位計画・関連計画との整合を図りつつ、これからの都市づくりの課題を抽出します。

新 新たな課題 **継** 継続的な課題 **改** 一部見直した課題

(1) 自然や歴史的資源の保全と活用

これからの 都市づくりの課題	継 松本市の貴重な自然資源の保全とこれらの資源を活かした市の魅力づくり
	継 松本城等の歴史文化資源を核とした中心市街地全体の魅力と回遊性の向上
	改 優良農地、自然環境の保全と地域特性に応じたきめ細かい土地利用コントロール

現況

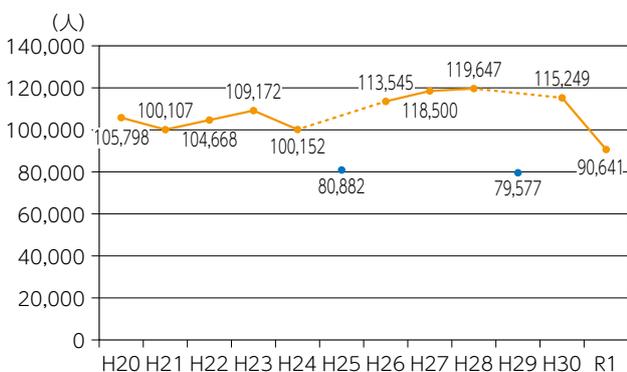
- 歴史や文化を活かしたイベント開催、旧開智学校校舎の国宝指定などにより中心市街地における歩行者通行量は平成24年度以降増加傾向にありましたが、令和元年度には減少しています。
- 郊外部（田園地帯や里山）でのミニ開発や農地荒廃等により田園景観が損なわれつつあります。
- 美ヶ原高原や北アルプスなど山岳観光地の観光客が減少しています。
- 新型コロナウイルス感染症拡大を機に、大都市一極集中の流れが変化しつつあります。



対応の方向性

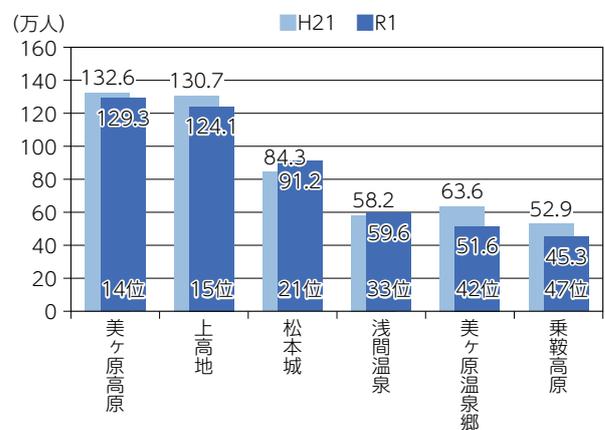
- 2つの国宝が存在するエリア全体の魅力向上、中心市街地内の歩行者空間の改善・形成
- 農林業施策と都市計画の連携による、適切な土地の保全・活用の推進
- 自然の恵みを活かした山岳リゾートの形成と更なる活用
- 価値観の転換やライフスタイルの多様化を見据えた自然や歴史資源の更なる保全・活用

● 中心市街地の歩行者通行量（年度）



注：H25とH29は秋の調査結果に特異性がある
（資料：松本市商店街歩行者通行量調査結果報告）

● 主な観光地延利用者数と長野県内の順位



注：美ヶ原高原は上田市・長和町・松本市の合計
（資料：観光地利用者統計調査結果、長野県観光部）

(2) 都市全体と各地域における活力の維持

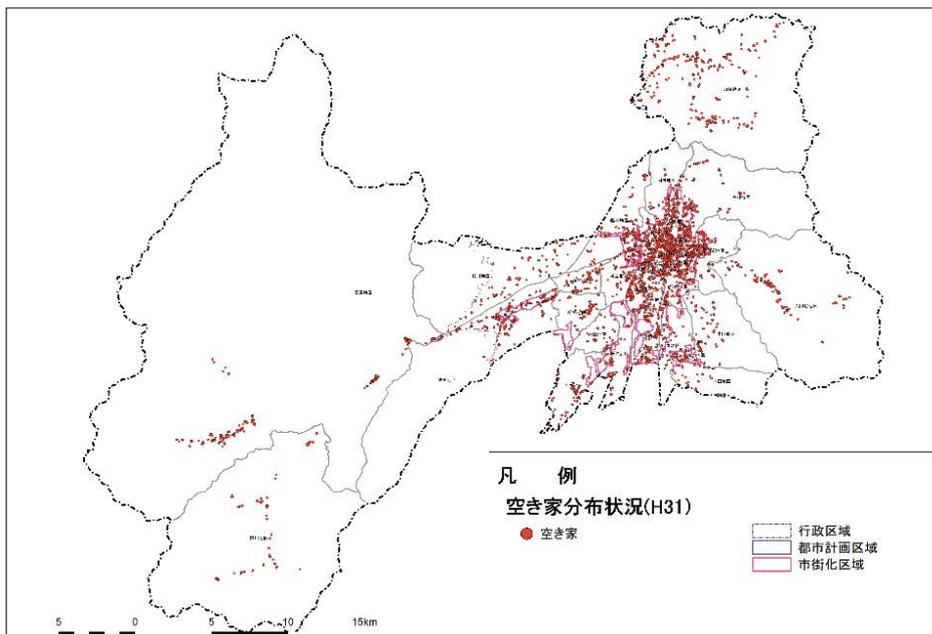
これからの 都市づくりの課題	<ul style="list-style-type: none"> 改 生活利便性の高い市街地・集落への緩やかな居住誘導 改 中心市街地や既存住宅団地における既存ストックの有効活用 改 生活、産業、観光等多様な分野を通じた市街地と郊外部の連携強化 継 産業政策と連携した新たな産業立地の誘導 新 市内35地区の特性を踏まえたまちづくりと郊外部の地域コミュニティの維持 新 地域資源（スポーツや温泉、観光など）を活用した健康づくりの推進
-------------------	---

現況
<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地に高次の都市機能や商業施設等が集積している一方で、空き家増加等により既成市街地の低密度化や活力低下がみられます。 ● 農業（農家数）、工業（従業者数等）は減少傾向ですが、商業（従業者数等）や観光（中心市街地観光客）は近年増加傾向にあります。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、商業や観光も先行きが見通せない状況となっています。 ● 新松本工業団地は令和元年に分譲が完了し、産業立地の需要は今後も続くことが予想されます。 ● 中山間地では、急速に人口減少や少子高齢化が進展しています。 ● 浅間温泉や美ヶ原温泉の利用者数は、年々減少する傾向にあります。



対応の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 密度が高い市街地の形成、身近な生活圏における機能集積の推進 ● 生活利便性が高い市街地における既存ストック（インフラや建物）の有効活用 ● 松本の特徴を活かした産業・観光との連携 ● 産業政策と連携した新たな産業立地誘導や先進企業の誘致策の検討 ● 地域特性を活かした35地区の取組みと連動した都市づくりの推進 ● 観光客・住民にとって魅力的な空間形成と地域資源（温泉等）の活用

● 市内の空き家分布状況



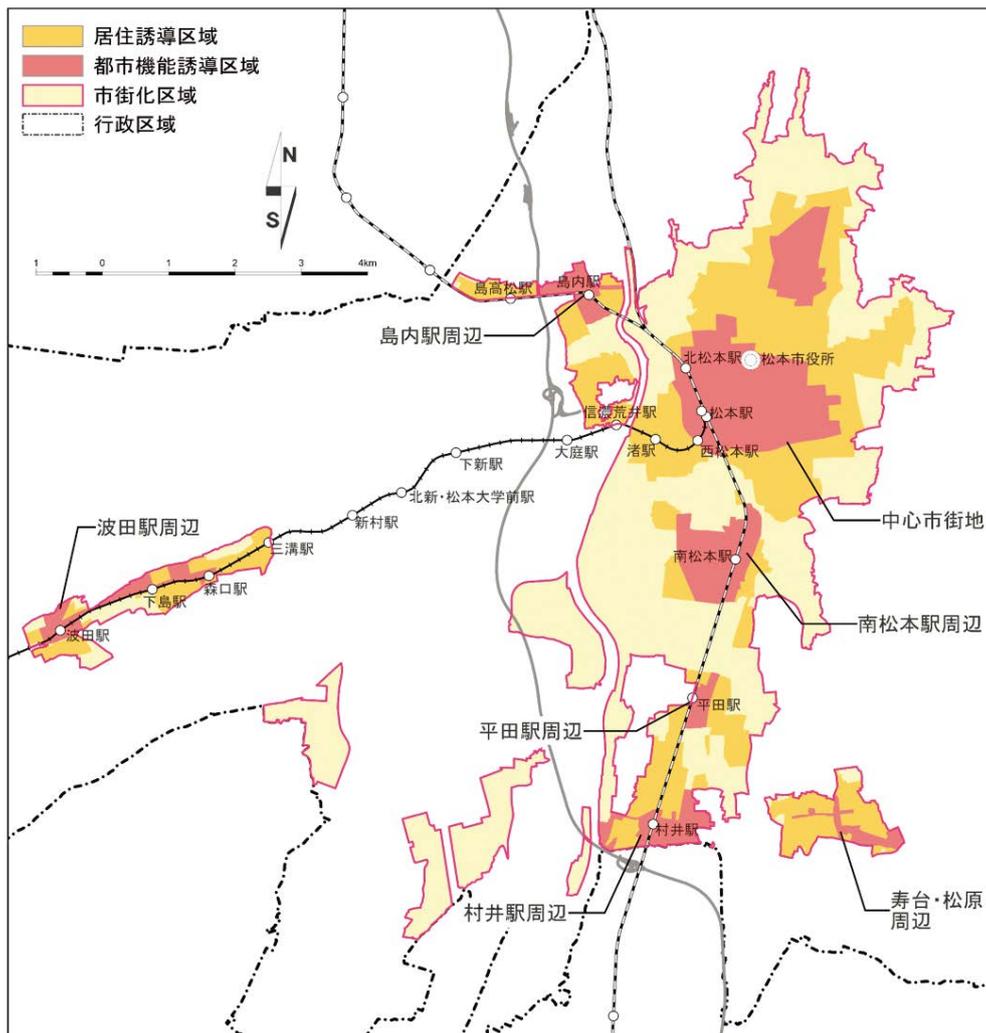
(3) 集約型都市構造実現に向けた立地誘導

これからの 都市づくりの課題	改	都市機能誘導区域における都市機能の立地誘導
	新	市街化調整区域における日常生活に必要な機能の確保
	改	都市機能誘導区域・居住誘導区域の指定を踏まえた土地利用配置の見直し

現況
<ul style="list-style-type: none"> ●「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の実現に向け、立地適正化計画や総合交通戦略、地域公共交通計画などを策定し、具体的な取組みを推進してきました。 ●人口減少が進む中山間地では、生活サービス施設の利用環境悪化が懸念されています。 ●AI・ICTの劇的な進化により、多様で柔軟な働き方が普及し、人口などの地域的偏在が是正される可能性が高まっています。

対応の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●立地適正化計画に基づく誘導区域への都市機能や居住人口の維持・誘導の推進 ●市街化調整区域における日常生活に必要な機能の確保 ●誘導区域内外の人口密度の状況を踏まえた土地利用配置見直し

●都市機能誘導区域と居住誘導区域



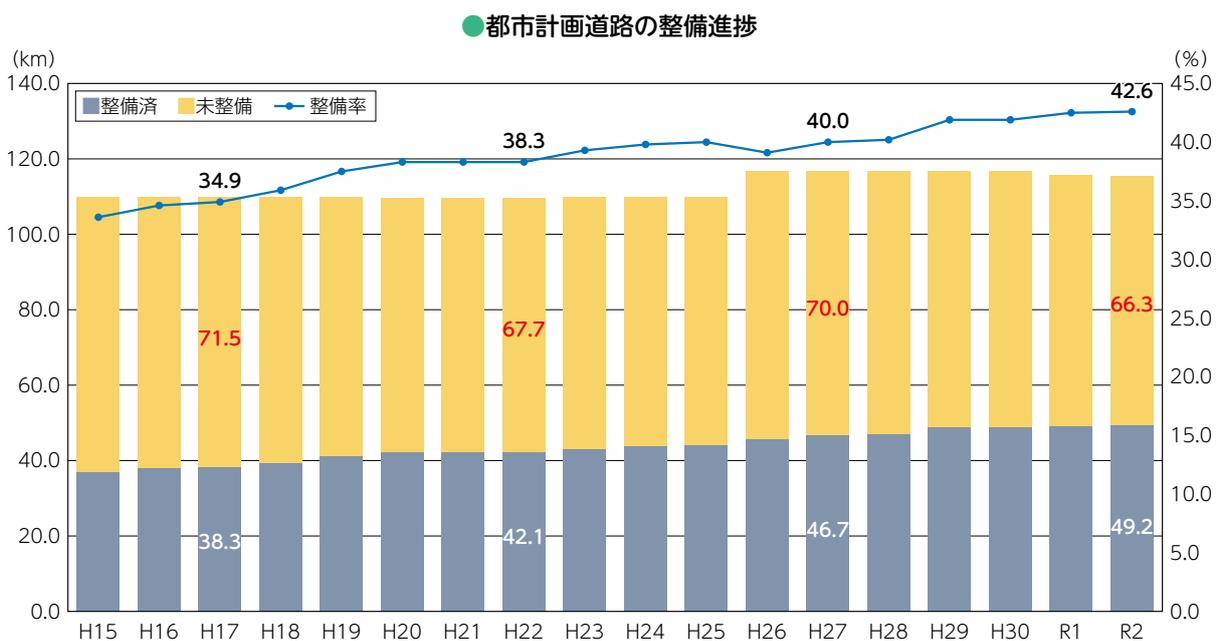
(4) 広域及び地域を結ぶ交通ネットワークの充実

これからの 都市づくりの課題	改 広域交通ネットワーク整備を踏まえた環状放射道路網の強化
	継 多様な利用者のニーズに対応したきめ細かい公共交通サービスの提供
	継 公共交通ネットワークによる地域間連携の強化
	継 自家用車を利用しなくても安全・快適に暮らし続けられるまちづくり
	継 中心市街地における歩行空間の創出・自転車活用の推進

現況
<ul style="list-style-type: none"> ● 幹線道路を形成する都市計画道路等が整備途中であり、市街地内の通過交通が交通混雑を発生させています。 ● 信州まつもと空港の利用者は、近年増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症による減便等の影響を大幅に受けています。更に、中部縦貫自動車道など広域的な道路網整備が進みつつあります。 ● 公共交通（鉄道、路線バス）利用者数は長期的な減少傾向にあり、市内の移動は、依然として約7割を自動車に依存しています。また、公共交通空白地である郊外部の生活では、自動車利用が不可欠となっています。 ● 中心市街地や郊外から中心市街地方面に続く道路において、混雑時平均旅行速度が20km/hを下回っており、中心市街地では自動車の利便性が高いとは言い難い状況です。 ● 中心市街地ではシェアサイクルのサービス提供が図られています。 ● 自動運転、MaaS等のICTを用いた新技術の革新・普及など、交通を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。



対応の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 広域的な交流圏の拡大を見据えた幹線道路網の強化 ● 観光需要を活かした地域間交流や地域経済の活性化に向けた空路及び空港の利便性の向上 ● 鉄道やバスなどをスムーズにつなぐ交通体系の構築 ● 持続可能な公共交通体制の構築や新技術の活用による安全・快適な暮らしの提供 ● 賑わいのある中心市街地を目指して、歩行者のための道路空間の利用、自転車活用環境の形成



(5) 安全で快適に生活できる都市づくりの推進

これからの 都市づくりの課題	<ul style="list-style-type: none"> 改 生活圏に安全性と快適性を生み出す都市基盤の維持・整備 改 被災後の迅速な復旧・復興を可能にする防災拠点の確保 継 中心市街地等における防災性向上に向けた取組みの推進 継 市民等が主体となった緑化の推進、公園の整備及び維持管理の推進 継 治水機能と生物多様性に配慮した水辺空間の整備
-------------------	---

現況

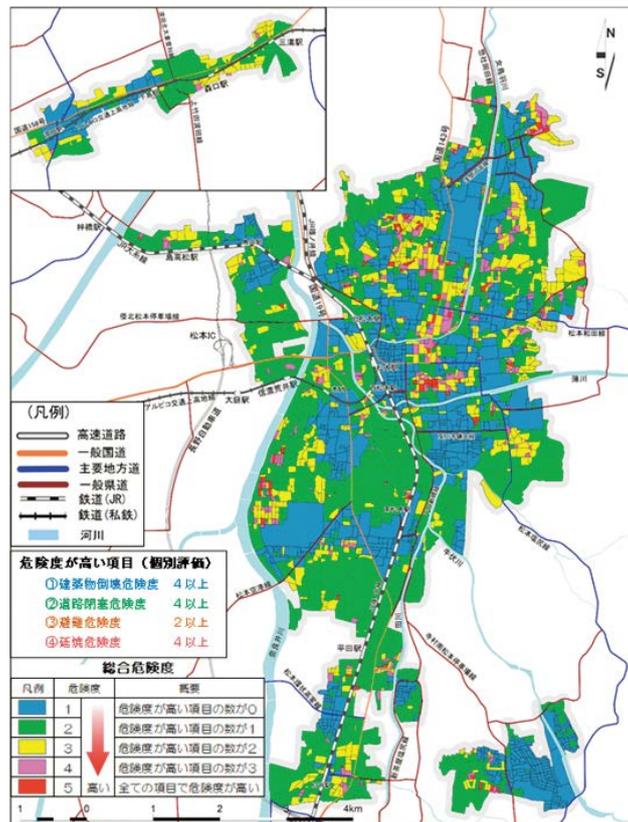
- これまで整備してきた道路や公園等の都市基盤施設が老朽化し、維持管理・更新費用の増加が見込まれています。
- 雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しており、従来の想定を超える被害が全国で発生するようになってきました。
- 老朽木造建築物等の建替えや都市計画道路の整備により、災害発生時に延焼等の危険度が高い街区は減少しましたが、依然として市内各所に危険度が高い街区が点在しています。
- 市内の河川は、自然と共生した都市づくりを進めてきた結果、松本市の魅力の一つになっています。



対応の方向性

- 都市基盤整備について予防保全の考え方に基づくトータルコストの縮減・平準化
- 大規模な被害が生じた場合を想定した、都市復興の基本的方向性や優先順位の検討
- 道路整備の継続や耐震改修、空き家対策等の連携による防災性の向上
- 多様な主体によるグリーンインフラの展開、快適性と安全性を備えた「質」を重視した公園の整備・維持管理
- 治水機能の向上や自然環境の保全の取組み継続、河川が有する多様な機能の活用

● 災害危険度判定調査による「総合危険度」



(出典：令和元年度松本市災害危険度判定調査)